

# 指扇小だより

教育目標 **やり抜く子の育成**

かしこく やさしく たくましく あたたく

8・9月号 令和5年8月29日 第5号

さいたま市立指扇小学校

〒331-0078

さいたま市西区西大宮1丁目49-6

電話 048-623-0133 FAX048-624-2200

【児童数】男子 443名 女子 428名 計 871名

## 対話の魅力 ～「思い」を伝え合おう～

校長 引間 陽子

「地球沸騰化」と新しい言葉が誕生するほどの猛暑日が未だ続く中、2学期が始まります。コロナの5類移行後の夏を存分に味わえたのではないかなと期待した気持ちで、どんな話題が飛び出すか、元気な子どもたちとの再会が楽しみです。

夏の地域の行事ですが、8月19日に『指扇まつり』が「好きです指扇！アートフェスタ～みんなで参加！ときめくふれ愛まつり～」をスローガンに、盛大に開催され、大盛況となりました。指扇中学校、土屋中学校、指扇北小学校の演奏と肩を並べ、本校の吹奏楽部も“校歌”“ルパン三世のテーマ”“学園天国”“千本桜”の4曲の演奏を披露しました。演奏後、控え室に戻った子どもたちの表情は満足の笑顔が光りました。演奏を振り返る際には、「練習を続けてきて、運動会の時はもっと緊張したけれど、今日は精一杯頑張れた！」「次の演奏の機会に向けて、目標が見つかった。練習を重ねてもっと上達していきたい！」など、子どもたちの「思い」を感じ取ることができました。度胸が付いてきた子どもたちの姿に嬉しくなると同時に、次のステップの目標を見出ししている「思い」の重要性を感じました。自分の演奏を振り返ったり他者の演奏に刺激されたりと、経験をしたからこそ実感し、「思い」が湧き出たのでしょうか。

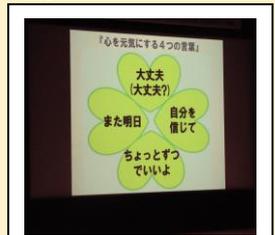
WBCで世界一を勝ち取った日本チームを牽引した栗山監督の著書「栗山ノート」にも、「選手との対話を大事にした。選手がどんな事を感じたり考えたりしているか、対話を通して掴んだことがチームづくりや選手の活躍にも大きく関係した。」との記述がありました。世界一ともなると、「思い」をかき立てられるような最高の経験となりますが、そこまででなくても、日頃から「思い」を引き出す対話をもっともっと学校生活の中で体験させたいと考えます。

いじめ防止シンポジウム  
レイボックホールにて開催



### 『心を元気にする4つの言葉』

- 大丈夫(大丈夫?)...ここをおちつかせることば
- 自分を信じて ...ここをはげますことば
- また明日  
...ここが「ほっ」とあんしんすることば
- ちょっとずつでいいよ  
...ここがまえむきになれることば



また、今年度第10回目を迎えた『いじめ防止シンポジウム』が8月24日に開催され、本校の代表の児童と一緒に参加した際にも子ども同士の対話の中から「思い」を感じました。このシンポジウムでは、過日開催の『さいたま市子ども会議』において「あなたにとって、たいせつなみんなへ みんなにとって、たいせつなあなたへ」をテーマに、代表児童生徒の皆さんにより作成された「心を元気にする4つの言葉」の披露がありました。いじめを起こさせない、見逃さない環境づくりの実現のため、子どもたちが中心になって自ら話し合い、高め合い、いじめを根絶する取組の一つになっています。

子どもたちからの「思い」を込めたメッセージによる力強い発信を受け、2学期始業に当たる我々教職員もエンジンを吹かさなければと強く感じるとともに、子どもたちが安心して充実した学校生活を送ることができるよう、「教職員一丸となって、子どもたちと対話し「思い」と向き合い、精一杯教育活動に携わろう」と、改めて気持ちを引き締める「思い」になりました。

学校行事も多い2学期となりますが、一つ一つの活動のめあてを明確にして、子どもたちの力を付けていきたいと考えます。保護者の皆様、地域の皆様、よろしくお願いたします。